

須坂市総合計画審議会 答申書付属意見一覧【案】

No	項目	審議委員意見
	将来像「みんながめざす須坂市の未来の姿」	
1		「田園環境都市」確かに今の時代いいんだけど、こんなのんびりした表現がいいのか。もうちょっと市民とともに作り上げていく、須坂市を作りたいという勢いがある将来像にしてもらいたい。
2		市長の公約を将来像とするのは、これはいかがなものか私は思って、市長の任期は4年、この計画は10年の計画のをやるわけだから、それをそのままとるとするのは、正直言って適切なかどうか疑問に感じている。
3		須坂らしさを表現する際には、マンパワーが活力の基になっていると思う。
4		強調していただきたいキーワードは、「人」「自然」を使っては。
5		行政だけでなく、民間や市民とともに取り組んでいることを何かよいキャッチフレーズに表してはどうか。「市民のためのまちづくり」、「市民とともに考える」などの文言が入っていると親しみが感じられる。
6		「魅力的まちづくりによる吸引力」、「人々を魅了するまちづくりによる吸引力向上」などの考え方が入っているか。例えば、須坂の教育が特色あり、いじめが少ない、不登校が少ない、様々な住環境が人々をひきつける。教育だけに限らず、町の雰囲気。 須坂の人々はとても優しく受け入れてくれる、須坂に住んでみたいと思わせる。
7		ただのブランド力ではなく、一過性のもでもなく「須坂に住みたい」と思える雰囲気。 一人ひとりの市民の作り出す雰囲気、一人ひとりの市民の責任により、住んでみたいと気持ちが抱ける「都市の魅力がもたらす人口吸引力」、「地域の魅力がもたらす人口吸引力」
8		市民がつくる魅力的なまちづくり。コミュニティの、まちづくりの仲間を増やす。色々な人が入ってきて地域が活力を持つことは必要、人口増にはつながらなくとも市の活力を維持するには必要なこと。 「人を魅了する須坂ブランド力の強化」「人を魅惑する田園都市須坂による吸引力の向上」
9		その中でどうするかというと1人1人が輝き、本物に磨きをかけるみんなのまち、文化、それから個人、人を尊重する風土。そして独立の気風、そういった信州の氣勢。そういうものを磨きを掛けて1人1人市民が自由闊達に地域の発展、自身の幸せ、そして町の発展。そ生きがいのあるまちづくり。一人ひとりが「ほんもの」に磨きをかける、生きがいのあるみんなのまち
10		須坂市の魅力と活力を生み出し、そこに住むことの誇りと魅力を高め、更に須坂市に住むことの魅力を高め、須坂市に住まうことの魅力を高め、且つ市

No	項目	審議委員意見
		民1人1人に活力を生み出すまちでなければならない。須坂の空気を吸って、水を飲んで、そこの社会に住むことが市民の生き生きした暮らしを生み出す。須坂に住むことが活力を生む。更に須坂の魅力を高め須坂に住まう。温かい市民の気風。須坂の人のホスピタリティ」
11		本物が持つ独特の光、輝き。後から来る人を排除するのではなく、そういう人達も須坂に住んで本物になる。そういう未来志向である。過去を見てるものではない。須坂に来る事によって、そういう(外からの)人達が須坂の空気や文化に触れ、本物化していく。むしろそれも須坂の活力になっていく。外から来る人によってより“本物”になっていく。須坂に来る人は皆、文化、水、自然に触れ“本物”になっていく
12		地方の魅力は人と人が織り成す社会関係。市民1人1人が織り成す、創り出す須坂の地域社会がとても安定感、安心感があり、そういう中で未来志向の子供達が育つ。そして暖かいホスピタリティの溢れる、独特のまち、須坂。須坂に住まうこと魅せる地域づくり
13		豊かなホスピタリティを持った素晴らしい地域の良さを一層高めるコミュニティそのような地域に魅せられた新たな人々をひきつける力を生むことでしょう。」 そういう地域こそ新たな人々を魅了し、それが地域の活力にも反映させることでしょう。 須坂の魅力にひきつけられ、須坂に住みたい人が来る、それにより地域の活力がまた高まる。
14		将来像の「磨きをかける」とは現在進行形の表現で、須坂市の目指す姿を示す「将来像」を表現するには違和感がある。 磨きかけた結果が「将来像」となる表現の方が良い。 「磨きかけたほんもの」がどうなったか状態について述べたものを「将来像」としてはどうか。
15		子どもたちがの夢や希望を持つことが大事。未来を担う子どもの将来を考えて「幸せ」「元気」などが入っていた方が分かりやすいし、目標を持てると考える。
16		過去や歴史も大事にしながら、より明日への希望を膨らませるという意味を持たせて単純明快の述べる。
17		将来像の実現を果たすために、『より高い「志(こころざし)」を持って共に学びあう』ことも入れてはどうか。
18		須坂のアイデンティティは知財ではないか、須坂の人は昔からそれを誉れとしている。大事にしてまちづくりをすすめる。 市民の横のネットワークの強さが独特の地域性を持っている。それを活かすことで、「都鄙格差(とひかくさ)」都会と田舎の格差が教育に反映する。

No	項目	審議委員意見
		社会の強い絆が子どもたちが安心して勉強できる環境となる。
19		須坂のコアコンピタンス（他に真似できない核となる能力）は、小さすぎず大きすぎず田舎過ぎず都会過ぎないまちで、市民同士の横のつながりがある。知識教養を持った市民も多く、発展の力に入れ込むのは大事である。言葉で言うとはありふれているが、事実にはあり触れていない。
	第1 総合計画の策定にあたって、第2 須坂市の基本課題	
20		第四次総合計画後期基本計画策定時にも「行政から市民が何をしてもらうのではなく、行政に私たち市民が何をすべきか」を述べたが、この考えが問われる時代を先見的にみた第五次総合計画が必要。
21		皆さんのご意見にもある市長がすすめている「共創」の理念が、もっと各所にちりばめられるべき。わかりやすく説明され、地域・まちをどう作っていくか方向性が示される計画にすべき。それには、各委員の皆さんのご意見を取り入れ、血の通った計画にしていければと思う。
22		行政はなんでも屋で、穴が開いたから直してくれ、猫の死骸を片づけてくれということではなくなってくるべき。時代も変わり始めてきた。今後は、民間でも行政でもない、公が再び自治体を取り戻さなければたちいなくなってくる。今後益々必要となる、この「公(おおやけ)」という考え方が読み取れる計画にしていきたい。
23		他の市町村との地域間競争に対する姿勢、危機感が表れていない。須坂市の特徴や積極性を打ち出して欲しい。
24		須坂らしい須坂を創っていこうという部分で、文章の中にもう少し須坂らしい言葉を使ったらどうかと思う。須坂に住んでいて須坂にいなければ享受できない部分はもっと強調して書いていくと、須坂独自の、住んでいないと受けられないことが分かるような部分をやっていくといい。
25		これからの時代ボランティアの存在が大変重要である。「共創」「協働」について様々な取組みで述べているが、どこか大枠で捉えておく必要があるのではないか。
26		意識の共有、「共有」が大事である。 外から来た人を排除するのではなく、新たな市民になっていただくことで、共に地域をつくっていくことが必要。
27		特色ある地域づくりについて、須坂市内の11ブロックのそれぞれの地域のそれぞれの特色を生かしていくことは今後大変重要ではないかと思っております。
28		田園地域、中心市街地など特色があり、狭い須坂市の中でも特色のある地域がある、これが一つの基本となる。大所高所、住民視点の両面性も盛り込んでいきたい。

	第1 総合計画の策定にあたって、第2 須坂市の基本課題
20	第四次総合計画後期基本計画策定時にも「行政から市民が何をしてもらうのではなく、行政に私たち市民が何をすべきか」を述べたが、この考えが問われる時代を先見的にみた第五次総合計画が必要。
29	スピードが求められる時代に縦割りではなく、横串をさした横断的組織が必要という言葉は重要な言葉である。是非盛り込んでいただきたい。
30	<p>「地域経営」とは、地域のもつ資源を有効活用し、農業や産業、市民生活をマネジメントし発展していくこと。</p> <p>地域の対象を須坂全体と捉えるか、高甫、日野、日滝など旧村単位をとらえるか。</p> <p>地域の捉え方を区別する意味でも「都市経営」という言い方を使っても良いのでは。</p>
31	<p>「新世紀創造計画という大きいビジョンあって、それを今度は市民レベルに視点を移して前回のビジョンはあくまでランドデザインを21世紀に向けて、どうやって市の活力溢れる地域を作っていくかランドデザインを作成した。そのランドデザインは間違いなく須坂の地域の今後について大きな方針を出した。今度はそれを踏まえて、21世紀というのは段々社会の形や在り方が見えてきた。市民とか町とかグローバルから見て、日本から見て、須坂はこれからどうあるべきか、21世紀の街づくりを提言した前回のビジョン。今回はそれを市民レベルに落として市民の生活、これからどうやって街づくりをしていくか。そこに視点を当てた。新世紀創造計画からみんなのまちづくりへと。</p>
32	<p>前回から、ランドデザインから市民1人1人の生活、幸せ、そういったレベルに視点を置いた方針。その視点で市として考えるそういう構想である。前回のランドデザインを発展させて、もう少し市民レベルの目線で提言したものである。</p>
33	<p>第四次総合計画・後期基本計画では現状値と目標値を設定して計画されているが、現状値と目標に対する達成度を出していただきたい。今後の計画を策定するにあたっては現状を把握することが必要。</p>
34	<p>ダイジェスト版も作成し、市民の皆さんにわかりやすく方向性をアピールしていただきたい。</p>
35	<p>具体的に「市民はどうすべきか」「産業界はどうすべきか」「行政はどうすべきか」という役割分担を示すと思うが、これを見て市民や企業が自分の計画だと認識すると思う。須坂市のこれまでの取組み一覧を提示していただいたが、そのようなこれまでの須坂市の積極性を充実させ、今後の取組みを具体的に示すことで将来ビジョンも明確に示せる。</p>
36	<p>計画で使う言葉は優しくわかりやすい言葉を使っていただきたい。文章は長くなるかもしれないが、わかりやすさを優先していただきたい。</p>

第1 総合計画の策定にあたって、第2 須坂市の基本課題	
20	第四次総合計画後期基本計画策定時にも「行政から市民が何をしてもらうのではなく、行政に私たち市民が何をすべきか」を述べたが、この考えが問われる時代を先見的にみた第五次総合計画が必要。
37	この計画を作ることも、計画を実行することも行政のみで行うのではなく、市民の皆さんと一緒にこのまちを作り上げていく、行政もその取組みを望んでいることを述べていただきたい。市民が親しみを持っている、目線で作る計画としていただきたい。
38	既に、市民の中に行政が入って色々なことを一緒に取り組んでいる、これは良いこと。
39	総合計画の宿命かと思うが、資料を見るのも大変苦労した。書いてあることはごもつともだが、見るのが大変。言葉少なく、写真や絵などを入れて見やすくしていただきたい。
40	行政の計画はこれまで難しい言葉を使って作るのが立派な計画だった。それをひっくり返して、分かりやすい言葉づかいで作っている、みんなで作り上げるという「共創」の部分すすめていただきたい。
41	行政と市民の意思の疎通も大切である、そのためにも分かりやすい内容、分かりやすい表現によることが重要である。 レイアウトを市民と一緒に考えるのは非常に良いことである。 また、せっかく市民と共に会議をやって意見を聴くことを行ってきたので、文字だけでなく写真をふんだんに入れた方がよい。
42	決して須坂だけが人口減少しているのではないという説明も必要である。 人数ではなく、傾向として全国的な傾向と変わらないということをグラフなどを使って述べては。特殊特別なまちではないということ。市民は悲観的になることはないと思う。 言訳ではなく、全国や県、地方都市の人口推移とあわせて市の人口の推移を示しては。
43	たとえ人口が減少しても地域の活力を維持し活性化を図ることが、地域のまちづくりの大きな課題ということが、一つの検討している部分かと思う。
44	人口減少とともに高齢人口増加となっていくが、高齢者が活躍できる環境を整える必要がある。その視点の生きがいのまちづくりが元気な老人の支援となる。
45	世の中では人口減が進んでおり、自治体によっては人口減を前提に計画を立てているところが多い。ここで人口増という言葉を使うよりも、予測では人口減ですが、現状維持していきましょう、という書き方がいいのかなと思います。
46	「地域再生」は、ローカルアイデンティティの再構築と言われている。「地域の個性の再構築」コミュニティの利活用、個々の知的財産により地域発展

	第1 総合計画の策定にあたって、第2 須坂市の基本課題
20	第四次総合計画後期基本計画策定時にも「行政から市民が何をしてもらうのではなく、行政に私たち市民が何をすべきか」を述べたが、この考えが問われる時代を先見的にみた第五次総合計画が必要。
	にいかす。
47	これまでの世の中では考えられなかったことも、世の中の流れに対して対応できる動きを打ち出すべき。大変ではあるが、行政も対応すべきである。ただ土留めをするだけでは、衰退するのみ。あしたはなくなってしまう。時にはデータを越えた発想が必要。
48	全体に数値化され、整理されたことで分かりやすくまとまってきた。指標も入って内容が理解しやすいが、進ちょく管理をしていくのは大変だと思う。
49	緑の田園都市ということで掲げておりますので、どこの市でも発表してないと思いますが、自給率が日本全国は40%といわれているが、須坂の自給率はずっといいと思う。須坂の自給率が高いことが項目で少し入れば、地産地消のできるどころと印象付けられるのかと思い、この憲章あたりを、みんなでもう1回考えてみてはいかがでしょうか。
50	注釈を添えるなど、できるだけ単語に関しては分かりやすくする必要があります。
51	企業も教育ということに関して中期計画を作るのですけれども、漠然とした計画はやめよう、具体的にこういう人間を何人つくる等そういう目標を作り評価すべき。
52	全体を通してこれらの施策、取組みの主語は誰になるのか、明確にすべき。例えば「地域」とあるが、漠然としてしまうのではないか。区の役員がやるのか、企業が関係すること、教育委員会など誰がやるべきことなのか。はっきりした内容で述べると施策も明確になる。
53	今の世の中、分散化してしまっていて誰も責任を取らない。反省するところは反省して明らかにして述べるべき。評価できるように作るべき。
54	担当所管を見て分かるようにしては。でないと、たらいまわしの状況になるのではないか。代表課がコーディネーターとして、担当部署名に表記するという考えもある。
55	私のような一般の人は、具体的な内容が出ていないと理解できないし、文章も3行以上であると読まない、こういう人は多いと思う。具体的事例を持たせて示した方が計画の内容が理解できる。
56	できるだけ数値化をして進行管理をすることは良いが、目標の設定をする場合に基本構想での理念の部分の正しく設定しないと後の進行管理が大変になる。過去のデータや現状を正しく踏まえて目標値を設定しないと、進行管理もできない。その点注意して設定していただきたい。

	第1 総合計画の策定にあたって、第2 須坂市の基本課題
20	第四次総合計画後期基本計画策定時にも「行政から市民が何をしてもらうのではなく、行政に私たち市民が何をすべきか」を述べたが、この考えが問われる時代を先見的にみた第五次総合計画が必要。
57	指標設定を行うのであれば、数字の根拠がちゃんと抑えられていないと、進行管理も困難になる。それなりの理論で根拠を抑えていただきたい。
58	できるものを達成可能な目標をかかげるのでは意味がない。ハイレベルな目標を掲げ進めていくことをしないと、何をやっても次第に状況が悪くなる。目標数値は少々しんどくても、ハイレベルであるべき。その達成に向け重点的を絞って取組み、国や他市町村に比べ須坂市としてまちづくりの形が打ち出せたという計画が欲しい。絶対届かないと分かっている目標を捉えるという無理な目標設定はないが、努力してでも近づける目標を設定することは必要である。
59	不動産では、見学のみで帰ってしまう人にアンケートをおこない分析している。住環境での不足している点などを調査している。転出しない理由を調査分析すべき。
60	将来的に須高や長野市との合併についても、計画に明記しなくとも今後念頭においていくべきである。
61	特に取組み指標は、市民のみなさんが知りたい、こうして欲しいという思いはあるので、できるだけ入れ込んで、分かりやすくしていただきたい。
62	資料編で用語集を入れていただくことにより、もう少し優しくするということで用語解説が入り、そこを見ることで知識を得ることができる。
63	人財や共創など辞書に出ていない言葉は、“人財”“共創”と表現し、“共創”などのように特殊な単語の位置付けを最初に出てくるところで表現するとよい。意味が強調されるとともに、誤植ではないこともわかる。
	第3 みんながめざす須坂市の未来の姿を実現するために
64	3つの概念「安心・安全」「元気」「交流」を挙げているが、第四次総合計画・後期基本計画策定時では他自治体に先駆けてあげたものだが、今ではどこの自治体でも述べている。市民住民としてこれからも守っていかなければならない須坂市の特徴や誇り、計画の意義などが表現できるものとすべき。子々孫々まで受け継がれる、町や地域の活力につなげるコアコンピタンスを表現して欲しい。それは一体何かをみんなで考え、一人ひとりの人生や生活の視点で見かたは異なると思うが、美しい自然、市民同市の心のつながり、共同体、産業観光商業の比較的バランスがとれている住みやすい地方都市、文化意識高い住民意識など須坂市の良い面を抽出できればと思う。
65	「安心・安全」はどの自治体でも考えているし、うたっている。表現方法に須坂市の特色を持たせるべき。
	前期基本計画 前期重点プロジェクト

66	<p>縦割り社会、縦割り行政を打破するために、思い切って横串を通した横断型の組織強化を須坂は強めるといことを入れては。従来の施策の担当を超えて、市や市民の発展のエネルギーとなるように、既にやっていたとしてもあえて強調してその体制を述べてはどうか。</p> <p>「全体力」という、個々の能力の足し上げだけでなく、プラスアルファの力を出すための方向である。連携や強調が新たな力を生み出すということを入れる。</p> <p>これまでの社会では縦割りで十分機能していたが、時代の課題を乗り越えるために横のネットワークを強めるための新たな須坂の活力を生む。</p> <p>「新たな須坂の活力を生む」この考えは大切。</p> <p>「連携」「協調」これこそ「共創」の一番のコンセプトである。</p>
67	<p>個々の取組みをみると須坂の良さや特色がみえるが、総合的にみる必要があるともう。横串を刺すような提言が必要。総合的にも良さや特色が出るように横串を刺すような提言となり得る計画としていただきたい。</p>
68	<p>これからの人口減少・高齢化の社会の中、須坂市の特徴となる柱となる事業が必要だと思う。産業のまちづくりや文化創造などの取組みの中でも、「須坂はこれだ」、「須坂に来るとこれがある」といった何か年間を通してなど柱となるような事業を取組むことによりアピールできるのではないかと感じた。人口減少、高齢化の進行の中、須坂の特徴となる柱の事業が必要。何か大きな柱の事業を育てられれば良いと思う。</p>
69	<p>市としては、これを重点としてやってみたいというようなものを抽出していただければありがたい。</p>
70	<p>須坂としての特色をもう少し具体的な形で出された方がよい。あわせてもう少し中期の中でやるには計画的な部分で掘り下げた部分の施策・課題をまとめた方がよい。</p>
71	<p>目標としてプロジェクトテーマを設定されたということは良い取組みかと思いますが、数値目標的な部分がないので頭に入らない。やったやらないの評価が結果とどう結び付けられるのか。重点的に取組む事項を設定して取組むべきではないか。</p>
72	<p>あわせて人口推計について、人を増やす構想が非常に重要な点。人口増加策は全国的に人口が減少するなかで一番大変なこと。企業誘致や子育て、結婚促進、健康づくり、住環境整備で人口を実質増やしていくという点についてもご意見をいただきたいと思います。企業誘致の際には、子弟の教育については一番気にする点。</p>
73	<p>須坂らしい自治体となるための適正人口規模は53,000人で良いのか議論がされていない。53,000人とするまちの理想論はないのか。</p>
74	<p>人口目標に伴ってやらなければならない施策が出てきて、そのための1つの大きな目標をつくるのが大切。人口減少に何らかの歯止めを入れることは</p>

	重要。ぜひやって欲しい。
75	人口を維持するだけでも総合計画の中でも特にウエイトを大きくおこななければならない施策です。リーマンショック後従来通りの企業流入はかなり難しい取組みである。企業誘致による人口増加は腹を据えて取組む必要があります。
76	人口の維持、増加策は大変であるが、須坂の魅力を皆で考えていく必要がある。人口を維持していくには工場誘致など産業振興が重要である。田園環境都市についても触れられていたが、将来像について、きれいであり、実質的な魅力のある、活力のある働く場を兼ね備えたまち、安心して子育てができるまち、高齢者でも働きやすいまちなどについて触れていただきたい。
77	人口増加の手段を真剣に考える。その中で、結婚についての課題もあり、高齢者の夫婦ひとり暮らし家庭が増えていることで区の役員のなり手不足となり負担が大きくなっている現状がある。かつての日本の特有であった三世帯家族は難しい状況となっている。多世帯住宅の推進施策も必要である。
78	平成32年度の目標50,000人台に向け、27年度最終年の前期重点プロジェクトの目標値が51,100人で、総合計画の折り返し地点で進ちよく状況を見極めて、また次の目標に掲げるという意味では27年度の51,100人のところが修正可能な目標値で、ちょうどみんな自分自身の目標意識になりやすい目標値かと思う。今後、団塊世代が高齢人口に区分されてくると状況ももう少し具体的にみえてくる。
79	人口目標について、無理すると、問題が出てきて、かえって悪くなったということもあるので、すでに須坂でいい環境ができてますので、人口が少し減ったとしても、うまくやっていけるだろうというところはあると思います。といいながらも頑張らなければいけない。
80	『生涯健康都市プロジェクト』の目的に、「健康で暮らし続けよう」とあるが、「健康で豊かに暮らし続けよう」としてはどうか。ただ身体的に健康であっても、精神的な不安や緊張を取り除き身体的な健康だけではなく、本当の健康は心身ともに健康であり、家庭や学校、地域でも不安や緊張をなくして、おおらかなことが健康であると思う。」
81	特色を生かした地域振興の推進、須坂での色々な取組みを見ていると女性の取組みは町をまとめるステージが整っているというか、いい形、まとまりがあるような気がするが、男女共同参画課の推進している女性起用の社会作りで適材適所に女性を、としていただきたいかと思います。
82	女性の社会進出、特色を生かした地域振興の推進、須坂での色々な取組みを見ていると女性の取組みは町をまとめるステージが整っている。適材適所に女性を。

83	<p>「地球環境保全プロジェクト」とあり、地球規模で考えることも大事であるが、「地球」ではなく、むしろ「地域」とするのはどうか。</p> <p>地域からのボトムアップによる環境対策の取組み、自分たちの住む須坂、まず地域からの環境保全により全てのスタートで自分たちの環境がだんだん良くなる。環境市民をめざすという、須坂発の環境都市というイメージ。</p> <p>地球がやるから須坂もやれというおしつけではなく、須坂をやって世界に先駆けて環境マインドを持った市民、市役所の取組みが大事。地域の自然から自発的に保全に取組み、その取組みが広がっていき地球規模になる。</p> <p>自らの行動で、自分たちの環境を良くする。</p> <p>「地域発」「ボトムアップ」というイメージでの環境保全の取組みはどうか。</p> <p>ローカルの環境保全が地球環境を良くする。</p>
84	<p>知財を認識する。知財は知識であり、文化であり、知恵であり、教養である。それは幸せにもつながる。</p> <p>須坂には確かに大学はないが、独特な教養人、見識が高い。有形無形の知的財産を活用しまちづくり、市民生活に反映させるという考えはどうか。地域や社会の発展の原動力に活用。</p>
85	<p>最近の傾向は環境を守るだけではなく、自然エネルギーの活用についても重要な取組み。環境とエネルギーはペア。環境保全・エネルギー創出の意味を入れ込んで。</p>
86	<p>前期重点プロジェクトの環境保全について、エネルギー創出についても入れたことは良いと思うが、それに対するプロジェクト指標も入れてはどうか。</p> <p>プロジェクトを推進する目標となることがあった方が良い。</p> <p>太陽光発電や水力風力など自然エネルギーの活用について、指標となるものを入れてはどうか。</p>
<p>前期基本計画 第1 みんなが助け合い、健康に暮らせるまちづくり (健康・福祉)</p>	
87	<p>言葉使いで「支え合い」という言葉と、「助け合い」という言葉があるが、私とすると「支え合い」でなく、「助け合い」という表現にしてほしい。</p>
88	<p>ただ健康であっても、精神的な不安や緊張を取り除き身体的な健康だけではなく、本当の健康は心身ともに健康であり、家庭や学校、地域でも不安や緊張をなくして、おらかなことが健康であると思う。</p>
89	<p>一般的には福祉の対象となる人、介護保険も含め2割程度で、残りの8割は健康な方、なおかつ、健康都市をうたっているのであれば健康を重点に出した方が良いのではないかと。</p>
90	<p>「運動」「栄養」については言っているが、こころの健康やストレスなども含め「休養」についても共通させて述べては。</p>
91	<p>社会環境や食生活の変化、ストレスなどの心の課題等も入れる。「日常の心身や…」という表現で入れては。</p>

92	健康の視点で考えると、高齢者が増えていく中で、元気に働ける環境づくりが重要ではないか。健康づくりも行政主導ではなく、民間活用で産業振興も兼ねた取組みが可能な地域だと思う。顔の見える対応ができる地域である。
93	市では健康づくりに力を入れている。健康づくりでの人口増加施策もあげているが、保健補導員のがんばりで達成できると思っている。がん検診の積極的な受診などが人口増加につながると思う。
94	全国的に自殺者が増えている。生きがい対策等で入れてもいいのではないかな。
95	心の病 自殺者だけでなく広く対象とする内容を取り上げていただきたい。
96	自殺するほどに悩む人だけではない。もっと広く「心が病んでいる人」を対象に入れていただいた方がよいのではないかな。
97	認知症対策はどこかに入っているか。入れ込んでいただきたい。
98	高齢者の認知症、一人暮らしの関係が非常に重要であると思う、孤独死については、孤独死を防ぐ地域社会づくりが重要、孤立化させない社会を目指していただきたい。
99	認知症サポート体制について、家族も含め本人の住む場所を具体的に述べていただきたい。
100	認知症の主な取組みは記載されているが、一人暮らしや老老介護などを課題として入れ込むべきではないか。実際に安心コールや食事の宅配などで安否確認を行っているので、市民の皆さんに安心していただくように、一番困っていることを取組みに入れ込むべきである。
101	近所隣りが助け合い、コミュニケーションを取っていくことが重要になるので自治会の関係も入れていただきたい。
102	配食サービスや緊急通報システムを強化するために一項目増やしても良いのではと感じましたので検討したいと思います。
103	家族が介護認定を受けるためには、市への介護認定の申請、医師からの意見書提出が第一歩であり、自分から動いて申請しなければならないことを啓発し周知させることが必要で、広報などで積極的に啓発啓もうする必要がある。
104	急速に進む高齢化の中で、高齢者の健康増進や生きがい、介護予防、ひとり暮らしとそれぞれについて述べるべきではないか。
105	介護の問題は今ではもう待ったなしの現状である。どうしていいかわからない人は多くいる。早めに手を打つために、行政や社会福祉協議会などが対処できる体制をとっていかなければならない。
106	日頃の体制と、緊急時にどう対応できるかが鍵になります。保健補導員会などのように須坂は他県から推進的な仕事をしていると聞いたこともある、モデル的な取組みは積極的にすすめていくべきです。
	第2 子どもたちが未来に夢をもてるまちづくり (子育て・教育)

107	<p>須坂市は「共創」という言葉を多く使っている、素案の中には「共生」という言葉も使っている。教育を「共にはぐくむ」＝「共育（きょういく）」という考え方や表記もあってはどうか。「共創、共生、共育」という3つの柱になるのでは。</p>
108	<p>教育についても どの学校が落ち着いているか、いわゆる荒れていない学校かという質問を受けたことがある。「須坂に行けば安心して学べる、須坂は教育熱心、あの町は面倒見がよい、あのまちに行った方がいい」となる魅力あるまちにしていきたい。</p>
109	<p>小学校3・4年生向けに私たちの須坂市という本を作って勉強していただいていることなんですが、偉くなったら首都圏ではなく須坂市でもっと活躍してくれと、その為には教科書で地元の素晴らしさを知ってもらえるのは非常に素晴らしいことだと思いますので、ぜひこの部分は今後とも引き続き押し進めていってもらえればいいのではないかと思います。</p>
110	<p>例えば教育の関係では、須高地域の高校のあり方について協議していただいているところで、須坂に総合技術校を設置するということが須坂市の特色ある教育となり、アピールポイントとなる。</p>
111	<p>自然と触れ合う場の整備の中でアニマルセラピーとあるが、可能性ということで全国的にも試みた例がないということでこの間新聞にものっていました。私の理解では小中学校の不登校の生徒が学習に復帰する中間的な段階で、動物に触れて心を癒すということで自然環境だけではなく福祉や教育に広がっていくテーマで、須坂らしいと考えられる。</p>
112	<p>学校教育で子供を育てることが重点課題だと思う。産業のない須坂は人を産業と見て、育てるといようなことが重点としてもよいのではないかと。幅広く子供に経験させる。頭ではなく身体で体験させることを重点的に考えていただいた方がよろしいのではないかと。</p>
113	<p>教育という部分、高等学校に対する今後新しい須高地域の総合技術学校、まさに工業を入れた新しいスタイルの高校ということで、他にはない須坂という部分をもう少し強調をお願いできないだろうか。つまり工業のまち、人づくりのまち、地域は人をつくり、人は地域を育てるとい部分にスタンスを置いた形の狙いどころ、具体的には、まさにデュアルシステムを使った地域の産業との連携を強調すべき。</p>
114	<p>地方都市ほど子どもが生まれて育っていく環境を整えないといけないということで優先度を高めていいと思いますし、特に女性の立場から幼稚園等のサービスについて意見が出てきたかと思いますので、地方都市としては力を入れるべきだと思います。</p>
115	<p>不登校児童数をオープンに公表し、全員でゼロにするといった目標数値に掲げるなど対応が必要ではないか。極端な意見かもしれないが、目標として掲げ一丸となって取り組む意気込みを述べるべきではないか。</p>

116	先生にも須坂市を理解してもらった上で、子どもたちを教えてもらうために須坂を紹介し知ってもらうパンフレットなどのツールが必要。学校の勉強も大切だが、地域の伝統文化を学ぶ機会として参加することは必要であると思う。地域をあげて伝えていく必要がある。須坂の場合、地域を愛する教材も作成し、教える人も地元の者が重要であるとの意見をお聞きしてそのように感じた。
117	インターネットや携帯電話での犯罪や問題についての対応はどう考えているか。啓発運動など何か教育の場でも取組みが欲しいが。
118	学校施設の整備について学校給食センターについて述べられているが、今後行政で運営していくという意味か。民営化、廃止とはならないのか。
119	取組み名「部活動の支援」 取組み内容「学校の部活動に必要なに応じて外部指導者を関係団体と協力して連携を図ります。」を追加してはどうか
120	奨学金貸与について、専門学校は対象外と回答いただきましたが、医療体制の整備関係でもあるように医療従事者の確保のためにも対象にすべきではないか。
121	「自分の身は自分で守ることを教える」ことも入れていただきたい。
122	須坂を好きになる教育の推進で、郷土について冊子を使い授業を受けたが、須坂市の歴史や産業がよくわかったので冊子を作って教育の中で使っていただきたい。
123	幼稚園保育園前の子育ての親の不安に対する取組みはどのように行われているのか。また、計画のどの部分に入るのか。
124	就園前の子育ての親の不安に対する取組みが必要。保健補導員会でも子育て支援の取組みを行っている。地域での方が参加しやすいという意見もいただいている。
125	教育は、もっとストレートに特徴立てて具体的に「須坂はこうするのだ」という意思が入ってきて欲しい。重要な特色を出さなければいけない部分であると思う。学校の教育と企業とのつながりなど市民が積極的に取り組んでいる点を述べるなど具体的に示して欲しい。まさにその通りだと思う。教育は人づくりであり、まちづくりである。その点についても触れていただきたい。
126	学校教育の充実で児童生徒の基礎学力向上とあるが、基礎体力の向上も入れていただきたい。
	第3 豊かな自然あふれる地域環境を守り、安心して安全に暮らせるまちづくり (環境、安心安全)
127	環境に関して、今は市民がもっと意識を持たないといけない状況が多い。住民みんなが理解することが大事だと思います。環境のことを知るということは日常のことですから、町ごとに、年に1回でもいいですからやってほしい。

128	自分たちの地域の環境を自分たちで良くすることで、取組みに付随したビジネスにつながる、環境マインドを持った市民、子どもたちが育つという関連性。ごみ処理問題にも避けずに正面から取り組む姿勢が、負担に感じず環境マインドが根付いている市民性がある。廃棄物処理の取組みにもつながっていく。
129	「防災情報の広報」、「防災備蓄品の充実」など、市民が関心のある項目について、指標が設定されていない。予算との絡みもあると思うが、目標を立てて実施計画に計上し、努力するための目標値を入れるべきではないか。市民が関心のある項目について、指標を極力設定するように。
130	防犯意識の啓発について、振り込み詐欺の被害が一向に減らない、対応について明記していただきたい。
第4 多様な文化を学び育て、交流する創造的なまちづくり (生涯学習、文化振興、スポーツ等)	
131	先生に頼るだけでなく、親が子を教え、地域が子どもを教えることが非常に大切である。地域のお祭り、例えば祇園祭など大切な財産である。学校の勉強も大切だが、地域の伝統文化を学ぶ機会として参加することは必要であると思う。地域をあげて伝えていく必要がある。 地域の伝統文化を学んだ子どもたちが大人になったら、またその子どもたちに伝える、長い時間はかかるが大切な取組み。
132	知財を認識する。知財は知識であり、文化であり、知恵であり、教養である。それは幸せにもつながる。 須坂には確かに大学はないが、独特な教養人、見識が高い。有形無形の知的財産を活用しまちづくり、市民生活に反映させるという考えはどうか。地域や社会の発展の原動力に活用。
133	心身ともに豊かに夢と希望に向かって育むジュニアスポーツクラブを支援が必要
第5 みんなの活力があふれるまちづくり (産業振興)	
134	農業を維持中心とする取組みをどこかに入れ込んでいただきたい。旧四賀村での貸家貸農地のような取組みを須坂でも行っていただきたい。専業農家が維持されていることで指導者の育成、農産物の安心安全も揺らいでおり消費者が何を信じれば良いのかという時代。農協でのそれらの取組み、農業小学校豊丘校の取組みが入ってきて良いのでは。
135	産業面からなんですけれども、須坂の知名度が足りない、須坂ブランドということで課題の研究を進めていることがあるわけなんですけれども、農業にしても工業にしても観光にしても、いまいちインパクトが弱いということは、どなたも認めていることだと思うんですけれども、その割合には計画の中でどう対応するかということの強烈的な計画が見当たらないのが全体的な印象。

136	グリーンツーリズムについて、農家とか住民のニーズを把握してメニューを開発されたいといふことで、今後計画しているようだが、今後修学旅行とかそういった人を積極的に受け入れている他市の例もありますので、ぜひ負けないようなプランというのをたてる。特に旅行会社もメニューを非常に求めている。それを着地型観光ということでご提示されることに注力すべきである。
137	須高地区は果樹を作ってきた歴史はあるが、なぜブランドがないのか。商品を作って売るにはブランド化という付加価値が大切である。
138	エコファーマーについて述べているが、人数としては1,000人を超えたが、実際その販売方法となるとその取組みが反映されていない。それはおそらく農産物のブランド化を進めるアドバイザーなどと密接に関連することで、課題もクリアされるのかと思う。この点を明記していただきたい。
139	須高地区は果樹を作ってきた歴史はあるが、なぜブランドがないのか。商品を作って売るにはブランド化という付加価値が大切である。
140	環境という観点から考えて、休耕地がありますので、地産地消と言うことを進めているが、その地産地消と言うことも有休農地の解消部分に付け加えていただきたいと思う。
141	「支援」内外問わず意欲のある、新しい意識のある者への支援は是非必要である。
142	「技術力はあるが販売力がない」お客さんにアプローチをする力がなく待っている状態であるとのことであつた。販売強化策は、県の総合計画にもあるがリンクさせても良いのではないか。
143	企業のニーズを把握し、地元のための用地確保など方向性を見出していきたい。
144	日滝原産業団地を完売することは市全体で取組むべき最優先事項である。県の団地だから県任せではなく、須坂の人口増加に寄与する大きなポイントである。
145	ぜひ市内企業ニーズを把握し方向性を見出すことで、企業誘致のための新規産業団地造成に限らず、実際手狭になった地元企業のためにも造成する意向を計画に反映していただくといいのではないか。
146	須坂商人塾の開催ということでソフト部分を強調されているということで、今後はやはりハードではなく一店一店がどのようにしたら売れるのか、ソフト面の支援を引き続き強化することを盛り込んでいただきたい。
147	新しい事をやる者に対しては、行政の支援が必要。意欲を支援することが活性化につながる。
148	観光産業、観光資源の活用などの施策で訪れる人を増やす取組みが重要なのではないのでしょうか。
149	事実観光客は須坂を通過してしまっているのではないか。

150	新たな産業観光の創出により、交流人口の増加につながる。
151	活性化で一番重要なのは雇用であると思います。雇用を創出することにより活性化につながっていくのではないかと。
152	自分の行動範囲の中で、市外にPRする。須坂市民がPRの人材だということを考えていただければ、もっと広がり、架空の計画ではなく実践につながる。
153	産業についても、高校で工業科の問題があると聞いていますので、市としても力を入れてほしいなということを感じます。
154	地元の産業は、それに協力して、たとえば社内で研修会をする素材をそのまま使って工業課の生徒に開放する。それを市の方は助成するというようなシステムが作れば内容もあれするし、地元に着くというような方向性で行くのではないかと。ということで今から考えてほしい。
155	須坂は人を産業と考え、人を育てることが重点ではないかと。幅広く子供に経験させ、頭ではなく身体で体験させることを重点的に考えるべきではないかと。
156	少子化対策の中でも子育てについて、「ワークライフバランス」という考え方が必要で、企業の賛同取組みが必要不可欠。子育てに対する企業や社会の支援なども折り込んでいくべきではないでしょうか。
157	農家をはじめ、結婚適齢期を過ぎた男性が多い。人口増加策にも出ていたが、具体的に結婚促進対策をおすすめする必要がある。
第6 みんなが快適に生活できるまちづくり (都市基盤整備)	
158	住環境の整備についてですが、今の住みたいニーズは環境の良い須坂市で、郊外の農業をやりながらの住環境なのか、または街中の団地・マンションなのか。長野市では市街地の居住ニーズが高く、市街地でのマンション建設が多く行われている。住環境整備を行う上でのターゲットを誰にするのか？よく考える必要がある。
159	市街化農地の利活用をどうしていくかを具体的に示していかなければならない。外へ外へ市街化の周辺に向いてしまう。市街化地域の農地の有効利用が大変必要である。
160	須坂市の施策の中でも農地を土地利用の規制緩和で検討しているところであるが、規制緩和の中でどう利用していくべきか。規制緩和の中で農地の高度利用を考えていくことと同時に、地域コミュニティの確保が必要である。
161	須坂は地価が高いのではないかと。住宅施策をすすめる上で、影響があるのではないかと。造成すれば人が来るのではなく、そういう面も検討材料とする必要があるのではないかと。
162	景観計画を策定します、ということで、具体的にやっていただいて、将来的には景観行政団体、景観法で進めているところも結構ありますので、そんな方向でがんばっていただければと思う。

163	工作物や建築物に対する景観育成ということ盛り込んでいけないか。
164	街中ほどもっと二酸化炭素削減のためにもっと緑が必要ではないかと思っ ているのに、今は町の中の緑がどんどん減っているのではと、歩いていると きに感じる。
第7 みんなが主役のまちづくり (行政経営)	
165	男女共同参画で、職場によって産休育休を進めて、産前後、子育て前後の仕 事が途切れないようにとか、不公平がないようにとあると思うが、盛り込ん だ方がいい。言葉だけで共同参画ということ伝えていても、数値が出てく るとそれぞれの人の考え方も変わってくると思う。
166	施策39「男女共同参画社会の実現」については、職場によって産休育休を進 めて、産前後、子育て前後の仕事が途切れないようにとか、もう少し盛り込 むべきでは。」
167	ボランティアだけではなく幅広く、隣近所や地域のつながりを助け合いおこ しが必要。
168	施策41「地域振興の推進」について、町並みキャンパスには信州大学だけ でなくほかの大学からの参加もあるので、「大学等との連携」という項目を充 実させていただきたい。
169	須坂市民がPRの人材だということを考えていただければ、もっと広がって いくと思います。
170	広報(すぎか)も充実していると思うが、少し魅力が無いというか、広報を 見ない人が多い。もう少し広報に工夫を凝らして、読みやすく、読まなけれ ばいけないようになればいいと思います。せっかく色々ないい情報があつ ても読まない人が多いので、その辺を充実させてほしいと思う。
171	空き家情報などを皆さんに提供して、須坂市の人口を増やすためにもお願い したい。
172	空き地や空き家、空き店舗、工場跡地、耕作放棄地、管理放棄された森林、 これは東京など活力があれば流通する場合がありますが、地方都市だと、広 域でUターンを狙うとかしないといけない。この低未利用地の問題について は山積していて、事務局でもまた練っていただければと思う。
173	昔は隣組の連携はよく取れていた気がするが、現在は希薄になってきてい る。今後か核家族ではなく、三代世代の同居ができるような施策や、自治会 の横の連携もでき、住民と行政が一体になれるようなことも必要であると思 います。
174	隣近所や地域のつながりの重要性について、述べていただいた方が良い。
175	市民評価への取組みについてですが、評価の方法を従来以上に強化をしてい ただきたい。特に取組み内容が漠然としていると評価は実際できないはずで ある。先程の説明ではできるだけ数値化することも実施するというものでし たので、従来以上に評価の方法等を見直して充実した市民評価を実現してい

		ただきたい。
176		行政職員の求められる人材像を定義し、そうした職員を育成・確保する人材戦略、これは非常に重要である。
	国土利用計画	
177		公共の新たな担い手と共創の促進ということだが、行政と行政以外の公共の担い手とあるが、公共の担い手はどんなものを指すのでしょうか。
178		人口減少に対する維持に対して数字を追いかけて計算するのはちょっと無理がある。コンパクト化と宅地化は相反し、住まいをどうやっていこうかと考えるべき。
179		空き家申請みたいな形、畑をつぶして住宅にするということも将来人口を見通すには大事だが、空き家も新しい人に住んでいただく方法も考えていただきたい。
180		基本計画の方針の中でも、コンパクトシティを打ち出している。街であるところは街で、山であるところは山で、これ以上無意味に広げることはしないことは国土利用計画とも一致している。概念として貫いている。